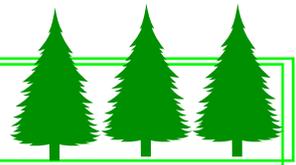




みつぎ便り



第183号 12月号 令和3年12月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

メタセコイヤ

公園の西側、池のほとりに一群の背高のつぼの木々があります。メタセコイヤです。数えてみたら十三本ありました。木々の高さは十メートルはゆうに超えて二十メートル以上かも知れません。世界記録では一五メートルにも及ぶ木もあるそうです。メタセコイヤはヒノキ科の落葉樹です。和名ではアケボノスギ、イチイヒノキと言うようです。枝には細長い羽のような葉が左右対称に隙間なくつきます。葉は秋になると橙褐色に紅葉し枯れ落ちます。

当初は日本を含む北半球で化石として発見されるのみで絶滅した植物と考えられていましたが、一九四六年に中国四川省で現存していることが確認され、日本にも移植されました。

初冬の今は茶色い葉に覆われていますが、春先にはフレッシュな緑を身に纏い、スッキリとそろい踏みをしています。公園の中でも、ひとときわ印象に残る自慢の木です。(重)



キンギョソウ

金魚のような花の形状から名前がついたキンギョソウは、地中海沿岸が原産です。真っ直ぐに伸びた茎にたくさん咲いた房状の花はなんとも愛らしいです。

キンギョソウの開花時期は本来四月～六月の多年草ですが、品種改良が進んだ現在では季節を問わずに咲くものも登場しています。しかし日本で育つキンギョソウは日本の高温多湿の夏には適応が難しいようで、一年草として扱われています。見次公園では、十一月から黄、白、ピンク等のパステルカラーのキンギョソウが、冬の花壇に彩りを添えています。

日本の花言葉は「おしゃべり」、「でしゃばり」、「おせっかい」で英語圏ではスナップドラゴン「かみつくドラゴン」と怖い名前がついています。花言葉や名前の由来を思いながら鑑賞すると、いつもと違ったキンギョソウに出会えるとおもいます。(昭)